事	52 業名 番枝	105	畜産関係事務費	担	当課	農政部 畜産課			
	会計	1	一般会計	An	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	l	
予	予算 款 5 項 2 目 1 根拠計画		農林水産業費	総合	分野	4	畜産業		
算			畜産業費	安定した畜産経営環境を整備する					
			目 1 畜産総務費 施策 1 競争力のある生産基盤の						
3	実施計画事	業	畜産関係事務費						
ī	市長公約	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。 ・安定した畜産業を実現するため、飛驒牛を代表と 確立を、具体的に進めます。	する	各種畜産物	の全		外販路の	

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖、肉用牛肥育、酪農、養豚、養鶏)	対象者数	241 戸
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・高山市の畜産振興の向上		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・飛騨畜産振興会の活動支援、畜産委員への報酬等		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績	・

		指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26
	活	畜産関係各種団体委員活動謝礼	件	目標値	33	33	33
	動指	由庄闲你行往凶冲女员加到初代	17	実績値	33	33	1
	標	算出根拠等		達成率(%)	100	100	-
	成	肉用牛飼育頭数	頭	目標値	3,800	3,900	4,000
	果指	内用十詞自頭奴	200	実績値	3,398	3,304	1
	標	算出根拠等		達成率(%)	89	85	-
				目標値			
成				実績値			1
成果		算出根拠等		達成率(%)			-
面				目標値			
				実績値			1
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			1
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-

		(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む)	ı	H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額
			歳出 (千円)	(A)	943	1,210	1,053
コス		益者負担(使用料	•負担金等)		36	39	36
۲	源 その)他特定財源(国·	·県支出金・起債等)		30	30	30
面		段財源			877	1,141	987
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	3,727	4,783	4,369
	指標				253	253	241

2 公析·訶価(Cheek) ※平成25年度の実績な評価

	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はど	A (2)	ニーズが高い						
D	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いニー	Б	ある程度のニーズ	がある	В	・飛騨牛ブランドの確立	は市民全体にとって重要で	ある。	
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い						
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない					
2)	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	B (1) 一部見直しが必要である		Α	・飛騨地域としての畜産振興活動のため、飛騨畜産振興会 市負担金は不可欠である。			
			C (0)	市が実施する必要性が低い						
	活動内容の 有効性 ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか		A (2)	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			・飛騨地域としての畜産振興活動のため、飛騨畜産振興会 市負担金は不可欠である。 ・畜産関係団体の役員には、各種書類の取りまとめを依頼			
3)			љ B (1)							
				目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		いる。			
		・最小限のコストで事業を実施できているか・委託化など事業の効率化・省力化に向け		A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない			・飛騨畜産振興会への負担金により飛騨地域としての畜産			
Đ	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	Α	活動が効率的に行われている。 - 畜産関係団体の役員には、各種書類の取りまとめを依頼しおり、効率的な運営が図られている。			
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効 があったか	J果 A (2)	効果があった			・飛騨畜産振興会により	J、広域的な施策の推進が図	られてい	
5	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図上で有効に機能したか	D (1)	ある程度効果があ	っった	В		により、個々の畜産農家に居	知が図られ	
	・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか		C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		ている。			
		合計	7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70	点	
(ΓΑ	分析・評価で 明らかになった。 」評価にするため 必要なのかを記	課題 かに何が かに何が ・畜産を取り巻く情勢の的確な把握	屋及び農業者	への情報提供・指導	I F		1	ı		

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)

・畜産情勢を注視しながら事業を継続して実施する。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・畜産情勢を注視しながら事業を継続して実施する。

縮小 廃止の検討 維持·改善 拡大 次年度の 実施方針 ・畜産情勢を注視しながら事業を継続して実施する。

0 維持·改善 拡大 縮小 廃止の検討

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

・畜産アドバイザーの効果を検証する必要がある。

H26完了予定

H26完了予定

事	業名番	5220 枝	7	飛騨牛ブランド振興事業補助金	担	!当課		農政部 畜産課	内線 2240	
	会計		1	一般会計	総	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして		
予			5	農林水産業費	4	4 畜産業				
算	項		2 畜産業費		計画	基本施策	1	安定した畜産経営環境を整備する		
	目		2	畜産振興費	Ш	施策	1	競争力のある生産基盤の整備		
	根拠計画									
5	実施計画事業									
1	市長公約 3		3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。 ・安定した畜産業を実現するため、飛驒牛を代表とす 確立を、具体的に進めます。	る名	·種畜産物の	全国	ョブランド化や、アジアを主体とした海外	・販路の	

1 事業の目的・概要(Plan)

I		誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖、肉用牛肥育)、ブランド推進協議会会員	対象者数	262	戸
	目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・全国ブランド飛騨牛を基軸とした首都圏等内外への農畜産物のPR及び	び販路拡大・販売拡大	-	
	角薄	事業の 実施手法 (手段)	・飛騨高山食材ブランド推進協議会事業での飛騨牛を基軸とした食材イ	ベント・フェア等のプロ	1モーション	

・東京スカイツリータウン「ラ・ソラシド」での飛騨牛を主軸とした食材PRイベント、飛騨高山食材を使用したフェアの

2 事業の推移・結果(Do)

算出根拠等

			H25の美績	開催						
ı				指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26	
		成	フェア開催店舗数	¥r	店舗	目標値		5		5
		果指	ノエノ州唯冶研タ	iX	卢丽	実績値		3	-	
		標	算出根拠等			達成率(%)		60	-	
		成果指	販売拡大店舗数		店舗	目標値		5		5
		果 指	別以りじが 人 占 研 数	•	/D 0H	実績値		5	-	
		標	算出根拠等			達成率(%)		100	-	
		成果指	イベント 報道数	,	紙	目標値				З
L	戓	果 指	イベンド 報道数	•	WD.	実績値			-	
B	成果 面	標	算出根拠等			達成率(%)			-	
ľ	血					目標値				
						実績値			-	
			算出根拠等			達成率(%)			-	
						目標値				
ı						実績値			-	
ı			算出根拠等			達成率(%)			-	
ı						目標値				
ı						実績値			-	

		(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額
			歳出(千円)		(A)	9,029	1,000	1,000
コス		者負担(使用料	•負担金等)					
۲	源 内	他特定財源(国·	·県支出金・起債等)					100
面						9,029	1,000	900
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/	B)	41,801	4,630	4,386
	指標	受益者	畜産農家・ブランド推進	劦議会員	(B)	216	216	228

達成率(%) 補足事項

Ť	分析·評価(C 評価項目	heck) ※平成25年度の実績を評価 評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い		21.14	2112171			
1	市民ニーズの確認	・争来美施に対する印氏――人の傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	・飛騨牛ブランドの高価 も要望としてあがってい	i値を発展させていくことは、st	上産者から	
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い			0,3,1,2,0,10,11,11			
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	В	・飛騨牛を基軸とした特色ある食材を普及するため、高山市和 牛改良組合の事業主体を見直した新しい組織が必要である。			
			C (0)	市が実施する必要	性が低い					
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている					
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α		反売拡大、国内外の報道、フェ :利益成果はあがっている。	cア開催等	
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し					
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト	宿滅等の改善の余地はない					
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	В	・食材をPR・販売拡大するにあたり、個々の利益も発生から、参加企業への受益者負担の見直しが必要		き生すること	
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった						
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	った		・飛騨牛を基軸とした飛 ンで開催したことは、効	『騨高山の食材を首都圏の著 『果的であった。	名レストラ	
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった					
		슴計		/ 10	\rightarrow		100点換算	80	点	
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	果題 かに何が・事業主体にふさわしい組織の設立。	受益者負	担の再考。						

H25事業評価結果 (二次評価)

・事業の効果を検証した上で、農産物とも合わせて飛騨高山ブランドの向上、生産、販路拡大に取り組むことが必要である。 ・市と団体の適正な役割分担が必要である。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・飛騨高山食材ブランド推進協議会を設立し、協議会自らがより販売拡大や販路拡大策を発展させる事業とする。

	0	維持·改善		拡大		縮小	廃止の検討	H26完了予定	l
次年度の 実施方針 (担当課評価)	•飛騨	高山食材ブランド推進協議	会を中	核として、首都圏等での効	率的で	効果的な事業を実施する。			
									7
	a	維持·改善		拡大		縮小	廃止の検討	H26完了予定	ı

(企画課・総務課・財政課評価)

・事業の効果を検証した上で、農産物とも合わせて飛騨高山ブランドカの向上、生産・販路拡大に取り組むことが必要である。・市と団体の適正な役割分担が必要である。

事	事業名 5221		215	後継者等肉用牛貸付事業費		担当課		農政部 畜産課	内線 2239	
	会計		1	一般会計		政策	4	4 「にぎわい」のあるまちをめざして		
予	款		5			総 合 分野		畜産業		
算	項		2	畜産業費	計画	基本施	策 1	安定した畜産経営環境を整備する		
	目		2	2 畜産振興費		施策	3	あらたな担い手の確保		
	根拠詞	計画								
913	実施計画	画事為	ŧ	後継者等肉用牛貸付事業						
ī	市長公約 3		3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・肉用牛飼育頭数4千頭を目指します						

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	肉用牛繁殖農家	対象者数	178 戸
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・飛騨牛繁殖基盤の確保並びに拡大を行い畜産の安定経営を図る。		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・肉用繁殖雌牛の5年間無償貸付		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績	貸付頭数	70頭

			指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26
	成	肉用牛飼育頭数	,	ĐĐ	目標値	3,800	3,900	4,00
	果指	内用十期目頭数	,	頭	実績値	3,398	3,304	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	89	85	-
	成	貸付実施頭数	t		目標値	75	75	7
	果指	貝刊天肥頭奴		頭	実績値	60	70	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	80	93	-
					目標値			
成					実績値			-
成果		算出根拠等			達成率(%)			-
面					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)		·	-
					目標値			
					実績値		·	-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				44	日本福			

		事業費 H24 (人件費を除き繰越・補正を含む) 決算額				H25 決算額	H26 予算額
			歳出(千円)	(A)	25,000	29,000	31,000
コス		者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内	他特定財源(国・	·県支出金・起債等)		25,000	29,000	31,000
面		財源					
	-1 / I	受益者1件当たり(円) (A/B)			129,534	150,259	174,157
	指標	受益者	肉用牛繁殖農家	(B)	193	193	178

3	分析·評価(C		<u> </u>						
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い			・小規模・零細な農家に	とって、繁殖雌牛の育成に	*大きな出費と
1	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いニース	B (0)	ある程度のニーズ	がある	В	なるため、5年間の猶予 他にも有利な貸付制度	らは助かる。また大規模農 が有り、利用が少ない。(F	家にとっては、
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い			望有)		
			A (2)	事業主体を見直す	「余地はない				A 578 LL -
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	そである	Α		基礎にして、国・県・市で基 となり、平成23年度で返還 基金で運用している	
			C (0)	市が実施する必要	厚性が低い		江は赤。中の別立てた巻並で進用している。		
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている			*************	- 1 11 577 + m
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうた	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	・高齢化や病気、けが等時における後継者不足により、繁殖 家戸数が急激に減少する中、繁殖雌牛飼養頭数の減少を低 に食い止めている。(H24→H25 戸数▲7.7% 頭数▲2.8%)		
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		TO DECOME OF COMO STATE		X=2.0%)
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向けま	A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を	В (0)	B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		В	・数年前に事業の見直し 金を運用している。	しを行い、現在は、県と市の	の積立てた基
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効! があったか	果 A (2)	効果があった					
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図 上で有効に機能したか	D (1)	ある程度効果があ	らった	Α	・繁殖雌牛の保留や導入に効果があり。零細な農家にとって 県外導入や更新等でも手軽に利用できる。		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった				
		合計	7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70	点
(F.	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするたる 必要なのかを記	課題 ・高齢化や後継者不足で、畜産農りた何が、国の特別をが廃止になり、関の	家が毎年減り	少している。		を受け付	ける方策はないか。		
	(参考) H25事業評価組 (二次評価)	結果 ・畜産農家のニーズを踏まえ、増頭	1目標達成の	ための効果的な運	用を図っていく必要がある。				

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・繁殖農家の経営にとって有効な事業であるため内容等の見直しを視野に入れながら続ける。

縮小 廃止の検討 維持·改善 拡大 H26完了予定 次年度の 実施方針 ・繁殖農家の経営にとって有効な事業であるため内容等の見直しを視野に入れながら続ける。 維持·改善 拡大 縮小 廃止の検討 H26完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

・畜産農家のニーズを踏まえ、増頭目標達成のための効果的な運用を図っていく必要がある。

July.	事業名 52220		家畜防疫衛生事業費		当課		内線 2237				
	会計 1 事 京 項 2		一般会計	4//5	政策	4	「にぎわい」のあるまちをまざして				
			農林水産業費	総合計	分野	4	畜産業				
算			畜産業費		基本施策	1	安定した畜産経営環境を整備する				
	目	2	畜産振興費		施策	2	安全で安心な畜産物の供給				
	根拠計画										
	実施計画事:	業	家畜防疫衛生事業								
	市長公約 3		産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。 畜産業の安定化を実現します。 産業としての畜産業を守るため、家畜診療の充実はもとより、管理アドバイス、非常時対策にも対応できる行政の体制強 化に取り組みます。								

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖、肉用牛肥育、酪農、養豚、養鶏)	対象者数	241 戸							
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・家畜伝染病の発生予防に努め、低コストで高品質な畜産物の安全安心な生産・供給による畜産経営の向上を図る。									
概要	事業の 実施手法 (手段)	・伝染病調査及び発生予防 ・法定家畜伝染病予防接種補助 ・家畜伝染病予防消毒薬備蓄及び配布									

2 事業の推移・結果(Do)

	・伝染病浸潤状況の調査
H25の実績	・法定家畜伝染病(鶏ニューカッスル病)予防接種補助
	家畜伝染病対策マニュアルの作成及び周知

			指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26
	舌	法中央支压选定	· 文叶拉廷 / 匏 =	羽	目標値	153,000	150,000	150,000
	動指	法正 多亩伝采病	i予防接種(鶏ニューカッスル病)	33	実績値	156,300	131,630	-
	漂	算出根拠等			達成率(%)	102	88	-
	舌	胆 州道 入 阪 特 宁	:疾病検査(オーエスキー病)	頭	目標値	130	130	130
	動指	宋77年八勝行足	大柄快直(オーエスヤー柄)	飒	実績値	10	10	-
	漂	算出根拠等			達成率(%)	8	8	-
	活動	届出伝染病(牛白血病)抗体検査		頭	目標値	2,400	2,400	2,400
	期指	HHLXXX(TI	шшшж <i>ү</i> зү Г шш <i>үз</i> у менчод		実績値	1,550	1,380	-
果	漂	算出根拠等			達成率(%)	65	58	-
	成	法定伝染病発生数		件	目標値	0	0	0
1	果指	本足仏未例光工		実績値	0	0	-	
ŧ	漂	算出根拠等			達成率(%)			-
	成	肉用牛頭数		頭	目標値	3,800	3,900	4,000
1	果指	17/11 1 20/30		230	実績値	3,398	3,304	-
	漂	算出根拠等			達成率(%)	89	85	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-

			事業費 H24 (人件費を除き繰越・補正を含む) 決算額		H25 決算額	H26 予算額				
	歳出 (千円) (A)				1,153	1,228	1,433			
コス		を益者負担(使用料・負担金等)								
۲	源内	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			1,153	1,228	1,433			
面		般財源								
	コスト	受益者1件当たり(P	F)	(A/B)	4,557	4,854	5,946			
	指標	受益者 畜産	華農家	(B)	253	253	241			

0 // == F/0 // W= +0= F + 0 + d+ == F

3	分析·評価(C		半価							
	評価項目	評価観点			評価書	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向は	kどう A	(2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニ	:-ズ B	(1)	ある程度のニーズ	がある	Α	・安全で安心な畜産物の	の供給が望まれておりニーズは	高い。
		は減少していないか	С	(0)	ニーズが低い					
			А	(2)	事業主体を見直す	余地はない		・白条叶点の細上から	、生産者自らが防疫措置をとる。	心面料は
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	В	(1)	一部見直しが必要	である	Α	あるが、市及び飛騨地	、生産有目らかの疫情値をとる。 域全体が統一した防疫措置を なって防疫事業を図ることは妥	図る重要
			С	(0)	市が実施する必要	性が低い		120 05 7 () 10 22 1 2 (,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	- 100 00
		·	А	(2)	目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はど	έラか Β	(1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	大きな伝染病等の発生がみられず防疫事業による予防効果は 上がっている。		
			С	(0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か		(2)	事業効率化・コスト約	縮減等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性			(1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	В	・法律上の検査を含め、生産者自らの防疫措置のための負担 が伴っており妥当なコストである。		
				(0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進にがあったか	7,	(2)	効果があった			タ番叶応恵業を行る	ことにより家畜伝染病の発生予	************************************
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を上で有効に機能したか	В	(1)	ある程度効果があ	った	В	高く、安心安全な畜産物	-とにより家苗伝采病の完生で 物ブランドの向上に効果があり、 手にも大きく効果がある。	
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能 か		(0)	あまり効果が見られ	れなかった		1-12(3) (120)		
		合計	8		/ 10	\rightarrow		100点換算	80	点
(۲)	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	果題 ・自衛防疫と市全体(飛騨地域) [・] ・緊急時の防疫対策の備蓄等を				域を図りつつ、効果的な防痕	ら事業を	行う必要性がある。		

H25事業評価結果 (二次評価)

・家畜診療業務については、民間委託も視野に入れるとともに、一層の防疫体制の強化を図る必要がある。
・平成24年度に策定した「家畜伝染病防疫対策マニュアル」の周知徹底を図り、鳥インフルエンザや口蹄疫、BSEなどの発生に備え、国・県・市・農業団体などの役割分担の明確化、実践的訓練の実施など、実効性ある取り組みを進めていく必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

(担当課評価)

・伝染病予防にかかる生産者の自衛防疫の徹底や普及啓発及び飛騨地域全体での統一した防疫措置の推進 ・届出伝染病(牛白血病)抗体検査の浸潤状況に基づき、陽性牛の淘汰等の指導措置

維持·改善 拡大 次年度の 実施方針

縮小 廃止の検討 H26完了予定

・今後も引き続き、予防接種の推進、伝染病の浸潤調査を実施し防疫措置を講じていく。

0 拡大 縮小 廃止の検討 H26完了予定 維持·改善 二次評価 (企画課・総務課・財政課評価) (担当課評価に同じ)

7	事業名	522	225	家畜人工授精事業費	±F	当課		農政部 畜産課	内線		
T.	7米1	番枝		苏田八二汉代宁宋 其	15	- I		成以印 田庄杯	2239		
	会	i l	1	一般会計	総	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして			
予	款	7	5	農林水産事業	合	分野	4	畜産業			
算	-22		2	畜産事業	計画	基本施策	毎年 1 安定した畜産経営環境を整備する				
	a 2		2	畜産振興費	ı	施策	1	競争力のある生産基盤の整備			
	根拠詞	計画									
	実施計画事業		ŧ	家畜人工授精事業							
	市長公約 3			・産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。 ・畜産業の安定化を実施します。 ・産業としての畜産業を守るため、家畜診療の充実に 化に取り組みます。							

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖・酪農)	対象者数	217 戸				
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	優良子牛の生産、増頭により改良増殖を推進し、農家の経営判定を図る。						
概要	事業の 実施手法 (手段)	・家畜改良、増頭の推進。 ・和牛、乳牛の家畜人工授精。 ・和牛、乳牛の受精卵移植・採卵。		_				

2 事業の推移・結果(Do)

		H25の実績	- 人工授精 3,068件 - 受精卵移植 27件 - 採卵 14件					
			指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26
	成	肉用牛飼育頭数	h	90	目標値	3,800	3,900	4,000
	果指	内用十則目頭勁	X	到	実績値	3,398	3,304	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	89	85	-
	活動	家畜人工授精実	□ 体	件	目標値	3,000	3,000	3,000
	指	外田八工12代	CILLITYX	- "	実績値	2,934	3,065	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	98	102	-
		家畜受精卵移植	件	目標値	80	80	80	
成		か田又行が が	20011 00		実績値	28	27	-
成果面	標	算出根拠等			達成率(%)	35	34	-
田	活動	採卵実施件数		件	目標値	40	40	40
	指	沐师天旭计数			実績値	29	14	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	73	35	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
				補	足事項			

飼育頭数は微減傾向にあるが、人工授精・受精卵移植件数は横ばいである。

		(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額
			歳出 (千円)	(A)	23,955	23,675	25,250
コス		者負担(使用料	•負担金等)		6,075	5,576	9,615
۲	源 内 その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
面		財源			17,880	18,099	15,635
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	99,813	98,646	116,359
	指標	受益者	畜産農家(繁殖·酪農)	(B)	240	240	217

3	分析·評価(C	heck) ※平成25年度の実績	を評価							
	評価項目	評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向	句はどう	A (2)	ニーズが高い			. 类效禾红生太会协师	良牛の生産に必要な専門打	土術し知識な
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴し	ハニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α		指導することによって「飛り	
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い					
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していない	か	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	・業務委託先も含め技行 ことで「飛騨牛」ブランド	析者が指導的立場として業 「の躍進につながった。	務を実施した
				C (0)	市が実施する必要	性が低い				
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況!	よどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	・優良牛の生産によって子牛の販売価格が全国トップで推移した。		
				C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直し が必要である					
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実 執行方法 施手法に改善の余地はないか		A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない					
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政:	負担を軽	B (1)			В	・内容を精査し、効率化やコスト削減を実施した。		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か		C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必				
		・事業の実施が市の政策、施策の推定があったか	進に効果	A (2)	効果があった					
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達上で有効に機能したか		B (1)	B (1) ある程度効果があった		Α	・優良牛の生産に努め	ることで「飛騨牛」ブランドを	推進した。
		・市長公約の実現を図る上で有効に か	敗削した	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった				
		合計		9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90	点
(F.	分析・評価で 明らかになった課題 A」評価にするために何が 必要なのかを記入) ・生産者の収入増と「飛騨牛」ブラン			の継続・路	羅進のためにも今後	・も業務を続けていく必要が	ある。			
	(参考) H25事業評価結果 (二次評価)									

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・既存の委託先との協議を進め、直営地区の委託化を検討しながら、更なる飛騨牛のブランド化や受胎率の向上を図る。

	0	維持·改善		拡大		縮小		廃止の検討	H26完了予定	
次年度の 実施方針 (担当課評価)	・既存(の委託先との協議を進め、	直営地	区の委託化を検討しながら	ら、更な	る飛驒牛のブランド化や受	胎率の	向上を図る。		
	0	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	H26完了予定	Ī

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

・委託事務の拡大を図る必要がある。

=	業名	522	227	繁殖牛舎建設支援事業	±F	当課			農政部 畜産課	内線
7	***1	番枝		来准十百是欧文族手术	15	- I			成以中 田庄杯	2239
	会記	it .	1	一般会計	総	政策	ŧ	4	「もぎわい」のあるまちをめざして	
予	款	款 5 農林水産業費		合	分野		4	畜産業		
算	サービー 田庄木貝		計 基本		拖策	1	安定した畜産経営環境を整備する			
	目 2 畜産振興費		2	畜産振興費	施策		ŧ	3	畜産関連施設の整備	
	根拠詞	+画								
-	実施計画	画事業	ŧ	繁殖牛舎建設支援事業						
	市長公約 3 産業の柱としての、農業・林業・畜産業を確立します。 ・肉用牛飼育頭数4千頭を目指します									

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	肉用牛繁殖農家	対象者数	178	戸			
目的 どういう状態 にしたいのか (意図)・肉用繁殖雌牛飼育頭数4,000頭を目指すため、飛騨牛の地元素畜率の向上と飛騨牛ブランドの拡大:								
概要	事業の 実施手法 (手段)	・牛舎建設等を行う生産農家、新規就農者、農事組合法人又は農業生産	行う生産農家、新規就農者、農事組合法人又は農業生産法人に対し補助する。					

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績	·繁殖牛舎	3棋

受益者 繁殖牛舎建設者

			指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26	
	成	肉用牛飼育頭数		頭	目標値	3,800	3,900	4,	,000
	果指	内用十期自頭奴		頭	実績値	3,398	3,304	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)	89	85	-	
	活	繁殖牛舎建設実施	结	棟	目標値	3	3		3
	動指	条旭十 日 廷政夫	THE STATE OF THE S	1本	実績値	2	3	-	
	標	算出根拠等			達成率(%)	67	100	ı	
					目標値				
成					実績値			-	
成果一		算出根拠等		達成率(%)			ı		
面	H				目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			ı	
					目標値				
					実績値			-	
		算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			ı	
		算出根拠等			達成率(%)	·		ı	
				補	足事項				

			(人件費を除き繰越・補正を含む)		決算額	決算額	予算額
ı			歳出 (千円)	(A)	10,000	15,000	20,000
ı	コス		者負担(使用料・負担金等)				
ı	۲	源 内	他特定財源(国・県支出金・起債等)				
ı	面		財源		10,000	15,000	20,000
		776	受益者1件当たり(円)	(A/B)	5,000,000	5,000,000	6,666,667

		評価基準						
	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い					
市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	・複数件の相談を受けて	ており、農家のニーズは高い。	
	は減少していないか	C (0)	ニーズが低い					
		A (2)	事業主体を見直す	余地はない				
市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である A		・肉用繁殖雌牛増頭のために23年度に立ち上げた新規事業 あり、他の事業主体が実施する可能性は低い。		規事業で
		C (0)	市が実施する必要	性が低い				
		A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		・事業を立ち上げた23年	E度の実績としては1件であった	たが、農家
活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が			からの相談は複数件あ ・農地転用、建築確認な	、増頭対策に寄与している。	
		C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		因。		
	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト	宿滅等の改善の余地はない				
執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		В			効であり、
	減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である					
	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった					
政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	った	В			
	・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった				
	숌計	7	/ 10	\rightarrow		100点換算	70	点
明らかになった。 評価にするため	果題・制度の周知を図り、利用促進を行う いに何が・また、計画段階で農地転用、建築研			う指導する必要がある。				
	市が実施する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	は減少していないか ・市が実施する ・・市が事業主体であることは妥当か ・・国・県・民間の活動と競合していないか ・・国・県・民間の活動と競合していないか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	は減少していないか	は減少していないか	は減少していないか	は減少していないか	は滅少していないか	は減少していないか

H25事業評価結果 (二次評価)

・畜産農家のニーズを踏まえ、増頭目標達成のための効果的な運用を図っていく必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・計画段階で農地転用、建築確認等の手続きを確実に行うよう指導している。

	0	維持・改善		拡大		縮小	廃止の検討	H26完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	・積極的	的に事業のPRを行い、畜産	産農家の	の投資を軽減し、繁殖雌牛	の増頭	を促進する。		
	0	維持·改善		拡大		縮小	廃止の検討	H26完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

・畜産農家のニーズを踏まえ、増頭目標達成のための効果的な運用を図っていく必要がある。

事	事業名		230	家畜改良推進事業費		!当課	農政部 畜産課					
	会	it	1	一般会計	総	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	2239			
予	款		5	農林水産業費		分野	4	畜産業				
算	項	į	2	畜産業費	計画	基本施策	1	安定した畜産経営環境を整備する				
	目		2	畜産振興費		施策	2	安全で安心な畜産物の供給				
	根拠詞	計画										
5	実施計画事業			家畜改良推進事業								
ī	市長公約 3			産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・安定した畜産業を実現するため、飛騨牛を代表とする各種畜産物の全国ブランド化や、アジアを主体とした海外販路の 確立を、具体的に進めます。								

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	産農家(肉用牛繁殖、肉用牛肥育、酪農、養豚、養鶏) 対象者数							
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・家畜の改良度や改良の方向性の確認のため各種品評会を開催するこ 意欲向上による増産を図る。	とにより、畜産物のブ	ランド化及び、農家の					
概要	事業の 実施手法 (手段)	・各種品評会の開催							

2 事業の推移・結果(Do)

指標

受益者 畜産農家

	·市畜産共進会経費等家畜改良事業 ·全国和牛能力共進会負担金(飛騨畜産振興会負担金)

		指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26
	成	肉用牛繁殖雌牛飼育頭数	頭	目標値	3,800	3,900	4,000
	果指	內用十条炮艇十四月頭奴	頭	実績値	3,398	3,304	-
	標	算出根拠等		達成率(%)	89	85	-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
成果		_		実績値			-
果面		算出根拠等		達成率(%)			-
囬				目標値			
		_		実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
		_		実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-

				事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)	H24 決算額		H25 決算額	H26 予算額
ı				歳出(千円) (A	4,5	533	928	990
	財		受益	者負担(使用料·負担金等)	4	124	424	424
	L '	源内	その	他特定財源(国・県支出金・起債等)				
	面	訳	一般	財源	4,1	09	504	566
		7	7	受益者1件当たり(円) (A/B	17,9	917	3,668	4,108

253

253

241

	評価項目		評価観点			評価基	基準	評価	評価内容	Pの説明(評価の理由等)	
		·事業室!	布に対する市民ニーズの傾向は	‡どう	A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認			· - ·	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	・飛騨牛ブランドを始め、 PRが市民にとって重要	とするブランド確立を図り「安ま である。	全・安心」の
		は減少し	ていないか		C (0)	ニーズが低い					
					A (2)	事業主体を見直す	B業主体を見直す余地はない		・飛騨地域としての畜産振興活動のため飛騨畜産振興会へ 市負担は不可欠である。		
② 市が実施する 必要性		業主体であることは妥当か 民間の活動と競合していないか	`	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	興会への			
					C (0)	市が実施する必要	性が低い				
					A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		・飛騨地域としての畜産振興活動のため飛騨畜産振興会へ 市負担は不可欠である。 ・畜産物のプランド化及び農家の意欲向上による増産がある		興会への
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか		どうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В			
					C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		度上がっている。		
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実 施手法に改善事業の効率化、省力化に向け実 施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽 減する余地はないか ・受益者負担は適正か			A (2)	1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
4)	執行方法 の効率性				B (1)			А	・畜産振興会への負担金により飛驒地域としての畜産振興 が効率的に行われている。		全振興活動
					C (0)						
		・事業の質があった。	実施が市の政策、施策の推進に	こ効果	A (2)	効果があった					
5	政策面に おける効果	・総合計画 上で有効	画及び主要計画等の目標達成? に機能したか		B (1)	ある程度効果があ	った	В	市共進会等の開催に。改良の方向性等を確認	より、畜産農家相互の意見交 することができた。	換や家畜
		・市長公領か	的の実現を図る上で有効に機能	能した	C (0)	あまり効果が見られ	れなかった				
		合言	+	8	3	/ 10	\rightarrow		100点換算	80	点
(ΓΔ	分析・評価で 明らかになった。 J評価にするたる 必要なのかを記	課題 かに何が	・畜産を取り巻く情勢の的確な	把握及び	《農業者	への情報提供・指導	1		1		

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)

・全国的なブランド牛としての地位を確立するため、各種品評会の機会を捉え、市内外への積極的なPR・情報発信を図る必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・県・他市村・JA等関係団体と連携を密にし、各種品評会を実施し、更なるブランド化を図る。

次年度の 実施方針

・県・他市村・JA等関係団体と連携を密にし、各種品評会を実施し、更なるブランド化を図る。

維持·改善

0 維持·改善 拡大 縮小 廃止の検討 二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

拡大

・全国的なブランド牛としての地位を確立するため、各種品評会の機会を捉え、市内外への積極的なPR・情報発信を図る必要がある。

縮小

H26完了予定

H26完了予定

廃止の検討

=	業名	52235		牧場放牧事業費	±F	当課	農政部 畜産課					
7	i K			以有以以于未 其	15	- AIR						
会計 1		1	一般会計	4//5	政策	4	「にぎわい」のあるまちをまざして					
予	予 款 5 農林水産業費		5	農林水産業費	総合	分野	4	畜産業				
算	ij	į	2	畜産業費	計画	基本施策	1	安定した畜産経営環境を整備する				
	E		2	畜産振興費		施策	1	競争力のある生産基盤の整備				
	根拠詞	計画										
-	実施計画事業			牧場放牧事業費								
	市長公約 3		3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・飼料自給率の向上、新規就農者の確保育成など総合的な畜産業振興策に取り組みます								

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖)	対象者数	194	戸					
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・夏山冬里方式の飼養管理として放牧推進を図り、他農業との複合経営の確立、飛騨牛の低コスト生産及び増産を 図る								
概要	事業の 実施手法 (手段)	・放牧場の整備、充実を図るとともに、適正な牧場利用調整、推進を行う	i							

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績	・放牧延べ頭数59,492頭
--------	----------------

コスト 受益者1件当たり(円)

受益者 肉用牛繁殖農家

			指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26
	活	放牧延べ頭数		頭	目標値	72,000	72,000	72,000
	動指	放权進入頭数		頭	実績値	59,134	59,492	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	82	83	ı
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			ı
					目標値			
成					実績値			1
成果面		算出根拠等			達成率(%)			-
Ш					目標値			
					実績値			1
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			1
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			1
		开山1队处守		10	正灰平(n)			

	(人件費を除き繰越・補正を含む)	決算額	決算額	予算額	
	歳出(千円) (4	17,777	18,526	19,770	
コス	財 受益者負担(使用料·負担金等)	8,985	8,924	10,800	
۲	源 その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
面	一般財源	8,792	9,602	8,970	

84,652

210

88,219

210

101,907

194

(A/B)

	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズの確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	・低コスト生産畜産労働力の軽減につながりニースが高く、飛 牛素牛生産が推進された。		
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い					
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	А	・放牧における防疫・衛生	主対策が迅速に行える。	
			C (0)	市が実施する必要	性が低い				
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	・牧場の現況に応じた放牧頭数の調整を行い、堆肥・肥料・ 草種子散布等により放牧場を活性化し放牧頭数の増頭を図 ている。		
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実	A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	Α	・必要最小限のコストで望 担の見直しが必要とされ	事業が運営されている。また、受益者 る。	
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか	A (2)	効果があった					
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があった		Α	・夏山冬里方式により、畜産農家の負担が軽減され、更にま 牛の安定生産・飛騨牛ブランドの向上が図られている。		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった				
		合計	9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90 <u>á</u>	
(F,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題・放牧場施設及び草地の老朽化が目 めに何が 進が期待される。	立っており	り、順次整備していく	事により、放牧利用が推進	され繁殖	生の増頭及び安定した子	・ 牛生産が見込まれ飛騨牛ブランドの	
	(参考) H25事業評価 (二次評価)		していく必	要がある					

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・指定管理者制度も含めた牧場施設・草地の維持管理方法の検討

	0	維持・改善		拡大		縮小	廃止の検討	H26完了予定
次年度の 実施方針 ^{担当課評価)}	•牧場	の管理方法と、牧場におけ	る迅速	な家畜伝染病防疫体制の	強化			
	0	維持•改善		拡大		縮小	廃止の検討	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価) ・指定管理者制度

・指定管理者制度の導入に向け検討していく必要がある。・県営牧場の手数料引き下げについて県に要望する必要がある。

=	業名	522	245	優良飛騨牛固定推進事業補助金	±F	当課		農政部 畜産課	内線			
7	***1	番枝		医 及八叶一国之证是于宋阳初亚		- An E			2239			
	会	it	1	一般会計	総	政策	4	「にぎわい」のあるまちわめざして				
予	7 971 -		5	農林水産業費	合	分野	4	畜産業				
算			2	畜産業費	計画	基本施筑	策 1	安定した畜産経営環境を整備する				
	E		2	畜産振興費		施策	1	競争力のある生産基盤の整備				
	根拠	十画										
-	実施計画	画事	Ě	優良飛騨牛固定推進事業								
	市長公約 3		3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・安定した畜産業を実現するため、飛騨牛を代表とする各種畜産物の全国ブランド化や、アジアを主体とした海外販路の 確立を、具体的に進めます。								

1 事業の目的・概要(Plan)

F		誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖、酪農)	対象者数	204	戸
	目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・遺伝的に良質な牛肉を生産する能力の高い繁殖牛を保留又は導入す・優良な乳用牛の保留又は導入による酪農経営の強化。	ే .		
	無要	事業の 実施手法 (手段)	・優良飛騨牛、優良乳用牛増頭に対する補助。			

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績	·優良雌牛保留対策 112頭 ·優良飛騨牛増頭推進 50頭 ·優良乳用牛保留·導入対策 30頭
	·優良乳用牛保留·導入対策 30頭

	_		指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26
	成				目標値	4,900	4,900	4,900
	果指	肉用牛繁殖雌牛	・乳用牛雌牛飼養頭	頭	実績値	4,712	4,599	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	96	94	-
	成田	優良雌牛保留·ż	首入面物	頭	目標値	230	230	230
	果指	医尺眦十床田 2	学 人现 奴	坝	実績値	190	192	-
	標	算出根拠等			達成率(%)	83	83	-
					目標値			
成果					実績値			-
果面		算出根拠等			達成率(%)			-
田					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-

刊	疋	7	垻	

		(人件費る	事業費 を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額
			歳出(千円)	(A)	31,690	32,446	41,170
コス		者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内	他特定財源(国	·県支出金·起債等)		12,816	13,546	17,550
面		財源			18,874	18,900	23,620
	コスト	スト 受益者1件当たり(円)		(A/B)	155,343	159,049	201,814
	指標	受益者	肉用牛繁殖農家·酪農家	(B)	204	204	204

3	分析·評価(C		と評価					T.		
	評価項目	評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向	はどう	A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い	ヽニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В		きで、特別優秀な牛が対象と 子牛が少ない面がある	なるため、
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い					
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない		医内部 化四氢十烷苯	##.	·**
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していない。	か	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	・優良雌牛保留対策事業については、H25年度より畜産協会が事業主体となり県と市が補助をしている。増頭推進、乳用補助は市単事業。		
				C (0)	市が実施する必要	性が低い		間がいないモデネ。		
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		. 京松化公安气 はおり	火はにわける後継老子口に	川敏味の
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況は	はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	・高齢化や病気、けが当時における後継者不足により、繁殖 農家戸数が急激に減少する中、繁殖雌牛飼養頭数の減少を 率に食い止めている。(H24→H25 戸数▲7.7% 頭数▲2.8%)		
					目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し			1120 / 32211110 283	X = 2.0%
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実		A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負	担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	Α	・優良雌牛事業は、制度 いる。	隻変更を経て、農家に本事業	が浸透して
		或する余地はないか 受益者負担は適正か		C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか		A (2)	効果があった					
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成上で有効に機能したの		B (1)	ある程度効果があ	ote	Α	・繁殖雌牛育成に係る素畜経費は大きな負担であるが、本により飛騨牛のブランド強化、頭数・経営維持に有効である		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機 か	能化だ	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった				
	슴計			8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80	点
([,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題 ・条件に当てはまる特別優秀 かに何が ・高齢化や後継者不足による				#入の推進。				
	(金書)									

H25事業評価結果 (二次評価)

・飼料高騰・景気低迷による畜産経営継続意欲の減退により高齢者及び小規模繁殖経営農家の廃業が進む中、優良雌牛の増頭により飛騨牛生産繁殖雌牛及び乳用 牛の経営基盤を強化し、畜産の経営安定を図る。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

> 実施方針 (担当課評価)

・条件に当てはまる特別優秀な雌子牛の掘り起し、さらなる保留・導入の推進をする。 ・飼料高騰・景気低迷による畜産経営継続意欲の減退により高齢者及び小規模繁殖経営農家の廃業が進む中、優良雌牛の増頭により飛騨牛生産繁殖雌牛及び乳用 牛の経営基盤を強化し、畜産の経営安定を図る。

維持·改善 拡大 縮小 廃止の検討 H26完了予定 次年度の

・飼料高騰・景気低迷による畜産経営継続意欲の滅退により高齢者及び小規模繁殖経営農家の廃業が進む中、優良雌牛の増頭により飛騨牛生産繁殖雌牛及び乳用 牛の経営基盤を強化し、畜産の経営安定を図る。

拡大 縮小 廃止の検討 H26完了予定 維持·改善 (企画課・総務課・財政課評価) (担当課評価に同じ)

事	事業名		飛騨牛生産経営安定推進事業補助金	担当課			農政部 畜産課	内線 2239		
	会計	1	一般会計		政策	4	4 「にぎわい」のあるまちをめざして			
予算	款	5	農林水産業費	総合	分野	4	畜産業			
算	項	2	畜産業費	計画	基本施策	1	安定した畜産経営環境を整備する			
	目	2	畜産振興費		施策	1	競争力のある生産基盤の整備			
	根拠計画									
9	実施計画事業 飛騨牛生産経営安定推進事業									
ī	市長公約 3		産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・肉用牛飼育頭数4千頭を目射ます							

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	肉用牛繁殖農家	対象者数	178 戸				
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)		・ おが取り扱う家畜共済に ように組合員相互で互					
概要	事業の 実施手法 (手段)	・高山市和牛改良組合が実施する家畜共済対象外の流死産等の事故(造成に対して一部助成する。	和牛改良組合が実施する家畜共済対象外の流死産等の事故(早期の流死産等)に対する互助のため けして一部助成する。					

2 事業の推移・結果(Do)

	+比+面 <i>乜</i>	
H25の美積	・	3,284頭

		指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26
	成	肉用牛繁殖雌牛飼養頭数	頭	目標値	3,800	3,900	4,000
	果指	內用十条炮唯十則後頭奴	頭	実績値	3,398	3,304	-
	標	算出根拠等		達成率(%)	89	85	-
	成	互助事業加入頭数	頭	目標値	3,360	3,600	3,600
	果指	互切争未加入 项数	330	実績値	3,351	3,284	-
	標	算出根拠等		達成率(%)	100	91	-
				目標値			
成				実績値			-
成果面		算出根拠等		達成率(%)			-
血				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等	達成率(%)		·	-	
			雄	足事項			

		(人件費を	事来質 と除き繰越・補正を含む	;)	決算額	決算額	予算額
			歳出 (千円)	(A)	543	647	900
コス		者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内)他特定財源(国·	·県支出金・起債等)				
面		財源			543	647	900
	-1 / I	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	2,813	3,235	5,056
	指標	受益者	肉用牛繁殖農家数	(B)	193	200	178

_	分析・評価(C 評価項目	1100.17	<u>※平成25年度の実績を</u> 評価観点	- 0 , 1044		評価	基準		評価	評価内容	宮の説明(評価の理)	由等)	
		****	-11-7		A (2)	ニーズが高い							
1	市民ニーズの確認	か	こ対する市民ニーズの傾向 D変化など時の経過に伴い		B (1)	ある程度のニーズ	がある		В	・流産等の事故は、毎年に大きな打撃を与えてい		ており、農家の経営	
	O D HE DID	は減少してし		_ ^	C (0)	ニーズが低い				に入こなり手と子んく			
					A (2)	事業主体を見直す	余地は	はない					
2	市が実施する 必要性		主体であることは妥当か 間の活動と競合していない。	tv	B (1)	一部見直しが必要	部見直しが必要である			・和牛改良組合が実施する、農業共済事業で補填されない派産等の子牛事故に備えた互助事業のための基金造成に一音			
	2212	_ // //	.,,		C (0)	市が実施する必要	性が但	ELV		補助することは妥当である。			
					A (2)	目的とする成果が	十分に	あがっている		1			
3	活動内容の 有効性		成果があがっているか などの目標値の達成状況は	よどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程	度あがっている	В	・高齢化や病気、けが当農家戸数が急激に減少	する中、繁殖雌牛郎	同養頭数の減少を低	
					C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってな	いため大幅な見直し		率に食い止めている。(H24→H25 戸数▲7.7% 頭数▲2.8%)			
			コストで事業を実施できてい ご事業の効率化・省力化に「		A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の	の改善の余地はない					
4	執行方法 の効率性	施手法に改 ・国等の補助	善の余地はないか 助金の活用など市の財政負		B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がる	ある程度図られている	Α	・農家負担50%、高山でいる。	市補助25%、JAか	ら25%補助を受け	
	減する余地はないか ・受益者負担は適正か				C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため	か大幅な見直しが必					
	・事業の実施かがあったか		施が市の政策、施策の推進	作効果	A (2) 効果があった					·高山市和牛改良組合;	が宝施する 安畜共	済で補債されたい流	
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及 上で有効に			B (1)	ある程度効果があ	った		Α	死産等の子牛事故に対 (1/4)助成し、互助事業	する互助の為の基 を援助することによ	金造成に対して一部	
		市長公約のか	の実現を図る上で有効に機	能した	C (0)	あまり効果が見られなかった				を和らげるのに効果がる	ある 。		
		合計			8	/ 10 				100点換算	80	点	
([,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするたと 必要なのかを記	課題 bに何が	高齢化や後継者不足で、畜	育産農家が	毎年減少	としている。							
	(参考) H25事業評価 (二次評価)		従来通り継続実施 。										
4	今後の方向性	(Action)											
	課題等に対す 今年度の対応な		従来通り継続実施 。										
		(〇 維持・改善			拡大		縮小		廃止の検討	t	H26完了予定	
	次年度の 実施方針		子 本 语 儿继 结 审 to		ı			1	<u>l</u>		Ш 1		

(担当課評価)

・従来通り継続実施。

維持·改善 拡大 縮小 廃止の検討 H26完了予定 二次評価 (企画課·総務課·財政課評価) (担当課評価に同じ)

事	** ** ** *** ***	250	飛騨食肉センター運営整備事業費	担	当課		農政部 畜産課	内線 2239
	会計	1	一般会計	総	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	
予	款	5	農林水産業費	合	分野	4	畜産業	
算	項	2	畜産業費	計画	基本施策	1	安定した畜産経営を整備する	
	目	2	畜産振興費		施策	3	畜産関連施設の整備	
	根拠計画							
S	実施計画事 非	Ķ.	新飛騨食肉センター運営整備事業					
市長公約 産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。 ・安定した畜産業を実現するため、飛騨牛を代表とする各種畜 確立を、具体的に進めます。						の全	 国ブランド化や、アジアを主体とした海	外販路の

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖、肉用牛肥育、酪農、養豚、養鶏)	対象者数	241	戸
	証で(対象)	由庄辰多(內用十条池、內用十加月、即辰、食跡、食焗)	对练行奴	241	Г
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・畜産の振興及び安全・安心な食肉の安定供給			
概要	事業の 実施手法 (手段)	・危険部位焼却に係る経費の一部助成(BSE対策) ・食肉センター建設に係る地元負担金(債務負担) ・豚と畜ライン停止による近隣と畜場への輸送費等の助成 ・と畜部門運営経費の一部助成			

2	事業の推移・結果	(Do)
	H25の実績	・危険部位焼却に係る経費の一部助成(BSE対策) ・食肉センター建設に係る地元負担金(債務負担) ・旅と畜ライン停止による近隣と畜場への輸送費等の助成 ・と畜部門運営経費の一部助成

	指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26
成		75	目標値	6,500	6,500	6,500
果指	に月午の即月現数	頭	実績値	5,924	6,105	-
標	算出根拠等		達成率(%)	91	94	-
成田	为胶 中	丽	目標値	6,200	6,200	6,200
指指	小 外山河 飒 奴	201	実績値	5,812	5,779	-
標	算出根拠等		達成率(%)	94	93	-
			目標値			
			実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-
			目標値			
			実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-
			目標値			
			実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-
			目標値			
			実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-
	指標 成果指	指標 算出根拠等 成果指標 算出根拠等 第出根拠等 第出根拠等 第出根拠等	指標	#	#	指標 実績値 5,924 6,105 標 達成率(\$) 91 94 内豚出荷頭数 頭 目標値 6,200 6,200 実績値 5,812 5,779 違成率(\$) 94 93 目標値 実験値 穿出根拠等 達成率(\$) 算出根拠等 達成率(\$) 日標値 実験値 算出根拠等 達成率(\$) 日標値 実験値 算出根拠等 達成率(\$)

			(人件費を	事業費 と除き繰越・補正を含む)	ı	H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額
				歳出(千円)	(A)	66,157	65,632	68,265
コス		受益	者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源内	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
面		一般	財源			66,157	65,632	68,265
	コス	\ T	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	261,490	259,415	283,257
	指相	票	受益者	畜産農家	(B)	253	253	241

3		heck) ※平成25年度の実績を	評価							
	評価項目	評価観点			評価書	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向	はどう	A (2)	ニーズが高い			・BSE対策など、安全安	心な農畜産物を市民に供給す	ることに
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い	ニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	対するニーズはとても高い。 ・販路拡大に対しても、高レベルの食肉衛生処理が重要であ		
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い			ి		
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性 ・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか		6 \	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	・大規模な他の産地と競争していくには、市村の補助が不可欠である。		
				C (0)	市が実施する必要	性が低い				
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		** \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		.
3	活動内容の 有効性			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている			・食肉センターの健全な運営は、飛騨牛ブランドの確立や畜産 振興に欠かせない。 ・BSE等の被害は確認されていない。		
				C (0)	目的とする成果がある が必要である	目的とする成果があがってないため大幅な見直し が必要である		DOZ () OF IX ELICIBEDE	240 20 300 5	
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け		A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善		富減等の改善の余地はない	Ī			
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負	担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		В	・食肉センターに対し、安定的運営とともに効率化やコスト縮を求めていく必要がある。		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か		C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進 があったか	に効果	A (2)	効果があった					
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成 上で有効に機能したか_		B (1)	ある程度効果があ	った	Α	・安全な食肉を提供するため、また販路拡大にあたって、高レバルの食肉衛生対策は有効である。		
	・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか		能した	C (0)	あまり効果が見られ	いなかった				
		솜計	8	3	/ 10	\rightarrow		100点換算	80	点
(Г,	分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入) ・食肉センターに対し、高レベルの食肉衛生対策を維持していただくとともに運営の効率化やコスト縮減を求めていく必要がある。									

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)

・センターの経営改善を促していく必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況

・各種助成事業の継続実施 ・食肉センター運営委員会への出席

・センターの経営改善を促していく必要がある。

	0	維持·改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了予定
次年度の 実施方針	AT TIES					

・各種助成事業の継続実施・食肉センター運営委員会への出席 (担当課評価)

○ **±	持•故書	拡大	和小	廃止の模計	H26完了予定
二次評価					